

3 月に入りましたが天候の方は愚図ついており、育苗や畑の準備にやや影響を与えております。特に、陽射しが強くなっておりますので、育苗においては、急激な温度上昇などで温度障害が出かねない状況も懸念されます。また、農家の巡回において、土作りで堆肥の投入が行われていますが、**堆肥と堆厩肥、家畜糞堆肥、醗酵粕・生ゴミ堆肥、鶏糞の区別がなされていない状況が多々感じられます。**これらの特性と用途を間違えますとかえって土壌を悪化させかねませんので注意が必要です。

発芽温度について

野菜の発芽適温はそれぞれ違ってはいますが、発芽時はハウレンソウ

主要野菜の発芽適温			
トマト・・・	20～30	キャベツ・・・	15～30
ピーマン・・・	20～30	ホウレンソウ・	15～20
ナス・昼 16 時間	30 夜 20	ブロッコリ・・・	15～30
キュウリ・・・	25～30	スイカ・・・	25～30
レタス・・・	15～20	カボチャ・・・	25～30
メロン・・・	25～30	ニンジン・・・	15～25

とレタス以外は概ね 25 ～ 28 で管理をすれば殆ど発芽してきます。夜間など冷える時期でも温床があれば、先ず発芽してきます。むしろ**失敗しやすいのは、晴天日の日中の高温による影響です。**3 月は日射が強いので、無風の晴天日ではハウス内が 40 を越えてきますので、育苗床は適当な通風換気を行わなければ 45～50 近くまで上昇します。結果、種が煮えてしまい発芽しません。こうしたトラブルが実際多く発生しています。温度が低い場合は、種の生え揃いが悪かったり、生育が遅れたりしますが、全滅することはありません。発芽、**育苗床には必ず最高最低温度計と、地中温度計は設置し温度管理を的確に行ってください。**

堆肥など土作り資材について

堆肥など土作り資材については、使用された材料によって大きく違います。稲ワラやモミガラなど植物体のみで作られた堆肥は土壌環境の改善に役立ちますが、完熟してない場合は、土壌中の窒素分を取り込んでしまうので、窒素飢餓を引き起こし作物が生育不良になり易くなります。家畜糞堆肥や生ゴミ堆肥は家畜の糞尿や生ゴミを処理することが目的となってくるため、肥料的な成分が比較的濃くなっているため鶏糞同様、使用に当っては肥料分を勘案した施肥設計が必要になります。鶏糞は殆ど土壌の物理的な改良効果は期待できません。石灰分を含んだ肥料としての用途となります。従って鶏糞の使用に際しては（鶏糞も醗酵鶏糞から単に火力乾燥させただけのものまでいろいろありますが）基本的に 10a あたり 300 kg 程度までの使用として下さい。また、最近、醤油粕、酒粕、茶殻粕、コーヒー粕、オカラなどの絞り粕が出回っておりますが、成分や塩分の含有の程度、土壌の改良効果など内容や機能不明のものが多く出回っておりますので使用に際しては充分検討する必要があります。

堆肥等の分析例 (1) (香川県のデータ、数値は測定範囲を現している。)

材料	水分	N	P	K	PH	EC	C/N 比
牛ふんのみ	49.9±14.1	2.2±0.8	2.9±2.8	2.9±1.5	8.4±1.0	4.9±2.0	16.7±6.1
牛ふん + オガクズ	57.8±13.5	1.9±0.6	2.3±1.5	2.6±1.2	8.3±0.9	5.1±2.2	21.0±5.9
牛ふん + モミガラ	57.0±14.5	2.3±0.9	3.4±2.2	2.5±1.8	8.1±0.7	4.1±2.2	16.2±5.7
鶏糞	19.7± 7.8	3.5±1.3	7.3±1.8	3.9±1.0	8.4±0.6	8.5±2.1	8.4±3.0

また、製法にしても、露天で堆積されてきたものと、公害対策で、屋内や、さらに密閉した施設で作られたものでは内容に相当の違いができてきますので、当然、使用にあたっては留意しな

ければなりません。前にも書きましたが、本県においては完熟堆肥と思える製品は殆どない状況ですので、できうれば、自ら3~6ヶ月堆積、切り替えしして使用することが望ましい。

堆肥等の分析例(2)

堆肥は製造環境の変化で、最近屋内で製造されてきています。結果として最近の堆肥は養分的に濃いものとなってきている。(香川県の事例)

種別	区分	検体数	水分	全窒素	リン酸	カリ
牛ふん堆肥	平成11年~17年分析の平均	195	50.7	2.0	2.3	3.7
	平成8年度分析の平均	400	54.8	1.9	2.3	2.4
豚ふん堆肥	平成11年~17年分析の平均	47	32.5	3.3	7.5	3.9
	平成8年度分析の平均	186	40.2	3.0	5.8	2.6
鶏ふん堆肥	平成11年~17年分析の平均	59	18.8	3.2	7.2	4.2
	平成8年度分析の平均	121	25.1	3.2	6.5	3.5

園芸相談 Q&A

- Q:** 昨年初夏取りブロッコリーを作ったが肥料をやったにもかかわらず初期生育が不良であった。
- A:** 初夏取りブロッコリーの定植時期は3月終わりから4月上旬となります。相談者にお聞きしたところ元肥として「有機アグレット744」を使用していました。これは有機100%の肥料ですので、窒素の分解が遅い上に、春先は地温が低いので、さらに効きが遅くなります。このために初期生育が遅れたと考えられます。従って、元肥に化成肥料を混用するか、施肥、畝作りを早めにマルチなどで地温を高めておく、または、植え付け後に液肥の施用で生育を促進しておく必要があります。
- Q:** ホウレンソウに灰色のすす状の汚れがついている、また葉が小突起や引きつれ状の変形が見られる。
- A:** すず状の汚れはホウレンソウの重要病害「ベト病」です。冬季間はハウスを締め切ることが多く、土壌の湿気も多いため、カビ菌であるベト病菌が蔓延しやすくなります。この病気に対しては、抵抗性品種の開発が進んでおり、新しい品種では「べと病抵抗性レース1~7」を売り物にしていますので、種の購入に際して確認して下さい。また、葉の小突起や引きつれ状の変形の原因は、ホウレンソウの生長点部分の若葉にダニやアブラムシが巢食していて、これらによる吸汁被害の痕が、ホウレンソウの葉の成長に従い顕著となって見えるようになったものです。このことに気づき次第DDVPなどで防除して下さい。また、常発圃場では作付け前にオンコルなど土壌処理剤を施用して下さい。
- Q:** 春先に石灰窒素を施用している圃場にバレイショを植えたいが元肥をどうしたらよいか？
- A:** バレイショは窒素と石灰は少なくてもよい作物です。石灰窒素は窒素20~21%、アルカリ分(石灰分)50~5%の資材ですので、熟畑の場合はPK化成で様子を見て、追肥で調整します。転作畑や石灰窒素の散布量がごく少量の場合は化成高度550を1aあたり20kg施用します。また、従来の「あさひ」や「そさい3号」を利用されていた時と比べると草丈や葉色が劣っているような感じを受けませんがジャガイモは地上部の出来で競争するわけではありませんから心配は要りません。

窓口対応の農力アップメモ

これからの野菜の作付けにあたり、連作の可否や相性の良い野菜について聞かれることと思いますので、ここに述べます。

連作の可否・・・基本的にナス科、ウリ科、マメ科は連作を嫌う作物が多くあります。

7年以上休む	エンドウ、ナス、スイカ	ただし、接木苗は連作可能
5~6年休む	ゴボウ、トマト、ピーマン	
3~4年休む	ダイズ、シロウリ、ナガイモ、サトイモ	
2年休む	キュウリ、ジャガイモ、インゲン	

